

2014 スーパー耐久 レースレポート



1 結果報告

大会名称 2014 スーパー耐久シリーズ Rd 3 富士スーパー耐久 7 時間レース

場所 静岡県御殿場市 富士スピードウェイ

参戦チーム UEMATSU×TRACY SPORTS ings S2000

参戦車両 HONDA S2000

ドライバー A 植松忠雄 B 藤田竜樹 C 寺西玲央 D 佐々木孝太

予選 ST-4 クラス 1 位/23 台中 (クラスポールポジション)

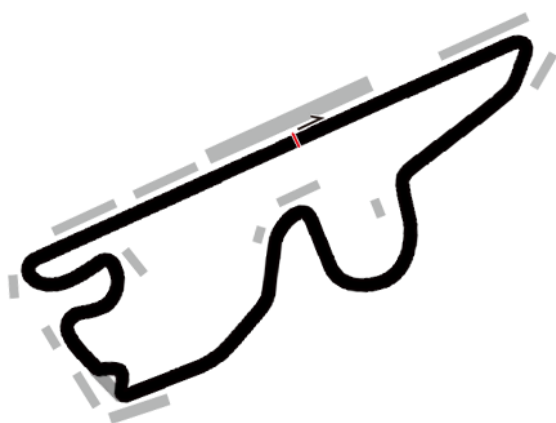
決勝 ST-4 クラス 1 位/23 台中 (クラス優勝)

2 参戦レース詳細

●スーパー耐久 Rd 2 エントリー総勢 55 台

ST-X 5 台 ST-1 3 台 ST-2 7 台 ST-3 8 台 **ST-4 23 台** ST-5 9 台

●富士スピードウェイ



FUJI Speed Way

Circuit Length : 4.563km

Race Distance : 7 Hours

Corner : 16

S/T Lap Record : 1:41.225 (2013 GT3)

Official Web Site : <http://www.fsw.tv>

スーパー耐久 Rd3 は富士山の麓、国内最長のストレートを誇る富士スピードウェイで行われました。そして、**富士ラウンドはレース時間が普段の倍以上の 7 時間**。マシンやドライバーの速さだけでなく、耐久性や作戦、チームワークなどさまざまな要素がいつも以上に必要となってくる難しいレース。**エントリー台数も前回をはるかにしのぐ総勢 55 台、自分たちが参戦している ST-4 クラスは 23 台と最激戦クラス**となった。そして今回はチームに助っ人として、現役スーパーGT ドライバーの佐々木孝太選手を加えた強力メンバーで勝利を目指しました。

舞台となった富士スピードウェイは 1475m もの超ロングストレートがあり、S2000 だとストレートエンドでは約 230km/h に達する。そこから鋭角に曲がった 1 コーナーへ約 70km/h まで急減速させなければいけない。さらにそこから高速コーナーもあり、後半は上り坂を右へ左へとくねくねと曲がっていかなければいけない、とてもリズムが取りにくく、コース幅も広いせいかラインとりも難しいコースとなっている。またマシンにとってもブレーキなどに厳しいコースで、耐久レースとなるとタイヤはもちろんブレーキなどの温度管理も重要なカギとなりました。

3 事前練習&公式練習 〜PRACTICE〜



富士スピードウェイパドック



ドライバーラインナップ

・事前練習—7/24(木)、終日

・公式練習—7/25(金)、11:00～12:00、13:35～14:35、16:00～17:00

レース前の事前練習としてチームは木曜日からサーキット入り。自分も富士スピードウェイは数えるほどしか走ったことがないため、30分くらいの練習時間をもらいコースの完熟を行う。チームとしては植松選手と佐々木選手によりマシンのセットアップが行われ、金曜日からのレースウィークに備え少しでもマシンの状態を上げていく作業をこなしていった。

金曜日からはいつものように1時間ごとの練習走行枠が3枠あり、計3時間の走行が許されていた。この日から藤田選手も合流し、チームメンバーが全員そろったところで予選、決勝に向けてさまざまなシミュレーションを行っていく。自分は主に決勝に向けてのレースラップを同じようなタイムで周回できるように練習させてもらい、その中で30分走り続けるメニューなどを担当した。最後の1時間枠では植松選手、藤田選手の予選シミュレーションを行い、その後自分も3周ほどのアタック練習をさせてもらい金曜日の走行時間を終了。練習でのタイムを他のマシンと比べても有利な状況にあり、マシンも好調だったことから良い状態で土曜日の予選を迎えることが出来た。

4 公式予選 〜QUALIFY〜



・公式予選—7/26(土)、11:05〜13:25(A.B.C.D ドライバー別)

今回の予選も A ドライバーと B ドライバーのタイムの合算により、決勝グリッドが決定する。C および D ドライバーは基本決勝出走のため基準タイムをクリアするための予選となる。今回チームは A、B ドライバー予選はもちろん新品タイヤ&燃料タンク軽く。というマシンの状態で走行。そして C、D ドライバー予選は中古タイヤ&燃料満タン。という決勝レースのマシンの状態を想定して走行した。

まずは A ドライバー予選、渾身のアタックで **1'57.406** をマークしてクラストップタイム！続いて B ドライバー予選、こちらも **1'57.316** という好タイムを記録しクラス 3 番手タイムを獲得。これにより合算タイムでクラストップを獲得し、明日の**決勝グリッドはポールポジション決定！**

次にいいのは自分の出番、C ドライバー予選。決勝ラップをイメージしながら、コンスタントなタイムを刻むこと、マシンにダメージのない走りをする、を肝に命じてコースイン。燃料満タンでもマシンのバランスは非常によくベストタイム **1'59.810** をマークし、2'00 秒台を常に記録。クラス 5 番手で C ドライバー予選を終えたが、他チームは新品タイヤや軽い燃料で走行しているところも多く、決勝に向けてかなりの手ごたえを感じた。ほぼ同じ状態で走った D ドライバー予選でも **1'59.000** というタイムを出し、すべての公式予選を終了した。

5 決勝レース ～FINAL～



ピットワーク



スターティンググリッド

・決勝レースー7/26(日)、11:00～18:00(7 時間耐久レース)

決勝レースは4回のピットインとドライバー交代が義務付けられていたため、各チームの作戦もさまざまに別れた。自分たちのチームは、D 佐々木選手→A 植松選手→C 寺西→B 藤田選手→A 植松選手という作戦をたてた。また毎ピットごとにガソリン給油、そしてタイヤは左側前後交換が1回、4輪交換が1回というなるべくタイヤの状態をセーブしてピットストップ時間を短くする作戦を考えた。その中でも自分のスティントはタイヤ交換なし、ガソリン満タン補給状態でスタートするという我慢が必要な一番踏んばらなければいけないスティントを任されることになりました。

空には怪しい雲があり、雨も予想される中いよいよ決勝レースの幕が切って落とされた！スタートは快調に決まり1位をキープしたまま走行するが、すぐさま後方からの追い上げに合いスタート直後から激しいトップ争いが展開される。なんとか1位を死守し、10周すぎあたりから2番手との差を徐々に広げ始める。スタートの佐々木選手はタイヤと燃料をいたわりながらも1'59秒台の好タイムを連発、約2時間を走り切り後続のマシンに大差をつけピットイン。ガソリン給油、タイヤ交換を素早く行い、続いて植松選手がスタート。植松選手もアグレッシブな走りで1'59秒～2'00秒台のペースで後続との差を保ったまま約1時間の走行を終えピットイン。燃料を満タンにしている間に素早くドライバーチェンジを済ませ自分がコースイン。マシンの状態を確認しながら走行すると思ったよりタイヤとブレーキの消耗が激しく、さらに燃料の重さも響いてなかなかペースをあげることが出来ない。2'01秒～2'02秒台でのペースになってしまい、このとき2番手を走っていたTOYOTA86にどんどん迫られてしまう。自分もなんとかペースを上げようと試みるが2'00秒台がようやくで、ついにはダンロップコーナーのブレーキングでTOYOTA86に抜かれ2位に後退してしまう。無線からも「なんとか食らいついていけ！！」と激を飛ばされ必死に追いすがすが約5秒くらいの差を開けられてしまい約1時間のスティントを終えピットイン。次の藤田選手に思いを託しドライバーチェンジを行う。

藤田選手は再びガソリン満タン、そしてタイヤは4輪とも新品タイヤに替えコースイン。ここで藤田選手が一気にペースを上げ1'58秒～1'59秒台のペースで走行。みるみるトップのマシンに追いついていき、そのままパス！再びトップに浮上する。その後もペースを保ったまま後続をつき離し約2時間のステイントを終え、最後の植松選手へとバトンタッチ。ガソリンを補給し、タイヤ交換はしないままコースイン。さすがにこのときのマシンの状態も厳しかったが、2番手のマシンのペースも上がらず、植松選手は2番手との差をみながら冷静に巧みにマシンをゴールまでコントロールしていく。そしてついに7時間のレースのチェッカーフラッグが振られ、植松選手も後続との差をキープしたまま無事クラストップチェッカー！チームはゴールするマシンを歓喜の輪で迎え、抱き合い、お互いを称えあい、最高の瞬間を過ごした。



スタート前



ドライバーチェンジ



決勝での走り



ゴール後の記念撮影

6 レースを終えての感想

まずはレースを始めて初の優勝というものを味わってもらい、すごく嬉しかったです。今回はスポンサー様、チーム、マシン、そして強力な先輩ドライバー方に助けられ、このような最高の結果を得ることが出来たと思っています。それと同時に自分はまだまだ力不足だなというも感じてしまいました。もっともっと成長し、自分の力がチームの優勝に貢献できるように、まだまだ精進していきたいと思います。特に決勝でのペースの遅さには課題が残り、悪い状態のマシンでも上手くごまかしながら走る術を会得しなければならないと思いました。

今回でチーム力は証明されたと思うので、自分が一人前のドライバーになれば再び優勝することも可能だと思いますし、年間チャンピオンというのも夢ではないと思います。

皆様のおかげで、このような恵まれた環境と最高のチャンスを手にすることが出来ました。本当にありがとうございます。次戦は 9/6、9/7 に岡山国際サーキットで Rd4 が行われます。引き続きご支援よろしくお願いいたします。

寺西 玲央

